



「NPO 法人 体育とスポーツの図書館」 〒444-2424 愛知県豊田市足助町城山 49-2 TEL・FAX：0565-62-3500
HP：<http://sportslibrary.web.fc2.com/> Blog：<http://sportslibrary.blog65.fc2.com/>

Sports Library Report No.53

発行日 2018/4/1

'18 春の足助イベント Part.2

第8回中村敏雄シンポジウム(速報)

3月25日、第8回中村敏雄シンポジウムが開催されました。県内はじめ大阪、和歌山、兵庫、福井、三重から33人の方が参加され、講師の玉木正之さんの話に熱心に耳を傾けました。

いつの間にか、自分の世界に我々を引き込んでいく玉木さんの話はさすがです。

その玉木さんの話のベースに中村敏雄さんが息づいていることを実感することができ、「中村敏雄シンポジウム」にふさわしい会となりました。

今回のシンポジウムの特徴は、内容の充実はもちろん、参加者層の多彩さです。教師、研究者だけではなく、スポーツの愛好者やスポーツクラブのリーダーなど、これまでには見られなかった顔ぶれでした。

講演後の茶話会でもロールケーキを頬張りながらの質疑が続き、司会者が中断しなくてはならないほどでした。何だかとても贅沢な時間を過ごしているようでした。参加されたみなさんに改めて御礼申し上げます。

後日、参加された小崎さん、片山さんからメールをいただきました。小崎さんからは「スポーツと民主主義は、日本ではほとんど理解が進んでいない領域ですね」とのコメントが寄せられました。片山さんのコメントは、「中村シンポ参加者の声」でご紹介します。

図書館の桜も満開間近です。また来年この時期にお会いしましょう。(成瀬 徹)



住して、組織の外の周囲の状況を自分で観ようとも、考えようともしない状況を、さまざまな社会の場で多々目にする日本社会と比較しながら今回のお話を拝聴させて頂きました。

スポーツの価値観の変遷における将来への展望というお話では、パラリンピックの世界から感じた「より速く・より高く・より強く」から、「より美しく・より人間らしく」の価値観への変遷に期待しているとのお話には、私なりの解釈の重ね合わせで、大変共感致しました。私は、乗り物スポーツでの経験と知見を基に交通安全教育という切り口で日々実践研究している訳ですが、昨今の、事故防止という言葉を巧みに散りばめる自動運転技術への盲信には、日々疑問を呈したくなります。

より美しく安全な乗り物(スポーツ)文化の土台を構築するためには一般の交通社会においても、より人間らしい感覚での歩行者教育・運転技術教育が先ずは先決であると考えます。そのベースがあって、その上に自動運転技術で補完するということなら、大変意味のあることだと思います。しかしながら、周辺社会の状況を具に観察すれば、教育の部分が未熟なまま、機械任せというのは如何なものでしょうか。使い方を学んでいない人にレーダーのついたミサイルを持たせているようで誠に不安でならないのです。

さて、歴史に学べというお話の部分でも、大変刺激されました。今年は、愛知県にいる毎月の中の20日間に、何度か図書館にお伺いし、いよいよバトミントンスポーツライブラリーの「サイクリング」を翻訳・研究してみようかなとも考えております。

長々となり誠に恐縮です。今回のシンポジウムに参加したことで再び新たなアクションへと舵をきるこの4月に、大いなる勇気と推進力を得ることができたと感じております。お誘い頂きましたこと、心より感謝申し上げます。

—中村シンポ参加者の声！—

交通教育 NPO OSCN じてんしゃスクール
代表 片山 昇

昨日のシンポジウムは、大変貴重な勉強機会をお与え頂き誠にありがとうございました。いろいろな意味で心揺さぶられた玉木正之さんのお話でした。

あえて、モータースポーツの視点について、どのような見解をお持ちか質問でお伺いしてみましたが、自動車の運転免許を持っていないというあたりから始まり、F1 ミナルディチームへの同行取材など、とても興味深いお話ばかりでした。

すべての資格や免許を持っていないからこそ、客観的な研究や調査、インタビューと観察、そして幅広い見識から想像力を駆使して語れるという視点もあるのですね。共感します。資格や免許・ポジションに安

